

これまでの経緯と新たな時代への展望を切り拓く

- 140年前(明治12年) 和歌山県初の県立中として旧制和歌山中学校開設
- 71年前(昭和23年) 戦後の学制改革により「桐蔭高等学校」開校
- 40年前(昭和54年) 和歌山市内南北学区制導入
 - 桐蔭の大学進学実績の復興の聲が高まる
- 28年前(平成3年) 学区を越えて出願できる「数理科学科」設置
 - 翌年から2学期制、さらに翌年から65分授業
- 20年前(平成11年) 「総合人文科」設置(～21年度入学生)
- 16年前(平成15年) 普通科の学区制撤廃
- 12年前(平成19年) 「桐蔭中学校」の併設
- **来年(平成31年、X元年) 「新たな普通科」の教育システム始動**

- 子どもの数が半分以上に
- 今後、社会が大きく変化
- 学びの変化(大学入試改革)

桐蔭高等学校とは？ 桐蔭生とは？

- **優れた才能を有し、何事にも前向きな生徒が集う学校**
 - 才 能：学力はもとより、運動や文化、芸術面の優れた能力
 - 前向き：自分を信じる。あきらめない。簡単には自分をみかぎらない。
- **一人一人が最善を尽くす**
 - 桐蔭の「文武両道」は、一人一人が追い求めるもの。
楽しいから、やりたいから、自分は出来ると信じるから、簡単にはあきらめたくない。
 - 『勉強一辺倒ではなく、部活動などに夢中になりながらも同程度の成績を収めることが、自分の能力の高さを証明することになる。そこに桐蔭生の誇り、プライドがある。』

- 余裕のある、潤いのある、高校生活をおくる。
そして、きめるときはきめる。

やりたいことや部活動にいそしみながら、学業を怠らず、
そして、こだわりを持った進路希望を叶える。

ある種、バンカラ的な“生き方”が桐蔭生のスタイル。

『友達が頑張っている。先輩たちがそうしてきた。』

これが桐蔭の伝統・文化、

そして、桐蔭生の頑張る力の源泉。

今、求められているのは・・・

■勉強 + 1 の高校生活

■自身の生き方・在り方を探し求めていく高校生活

→桐蔭高校での自分の見つけた + 1 の生活

→国体ヨット競技での優勝と医学部進学

→東大・京大の推薦入試1期生の合格者

※ 桐蔭高校・桐蔭生は、部活動や学校行事を大切なものとして重視し、全力で取り組みます。

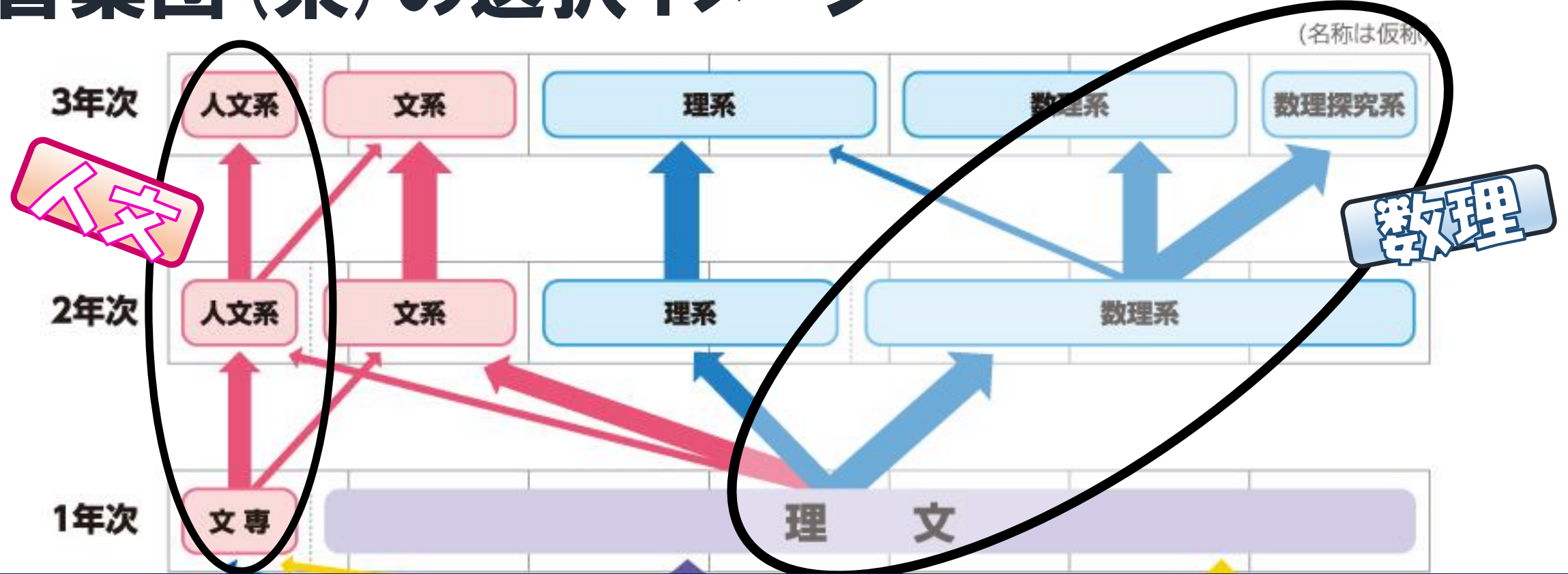


※クラス数は仮定です。募集定員は秋に県教育委員会から発表されます。

桐蔭全体を
単一学科＝「**新たな普通科**」
として募集する。

募集段階で束ねる＝「**幹を太くする**」ことで、土台をしっかりさせ、文系・理系に関わらず、将来のトップリーダーを多く輩出するための教育を行う。

学習集団（系）の選択イメージ



- ※ 高校入試の出願時に将来の方向性(学科)をしぼるのではなく、桐蔭での学びを通じて、方向性を探る。
- ※ 教育課程上、数理科学科や総合人文科の良かったところを選択できる。

教育課程の概要

単位数			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	
3年	「理」	数理探究系	現代文B	古典B			日本史B /地理B		数学探究		数学Ⅱ		化学		物理/生物		課題研究	英語表現Ⅰ		コミュニケーション 英語Ⅱ		体育	総学	LHR													
		数理系																																			
	「文」	理系																																			
		人文系																																			
		文系					国語 課題研究	日本史探究/ 世界史探究B/ 地理探究	倫理	公民探究/ 世界史探究A	数学探究	生物探究	化学探究/ 地学探究	英語表現Ⅱ																							
		倫理/CE	公民探究/ 芸術探究																																		
2年	「理」	数理系	現代文B	古典B			日本史B /地理B	世界史A		数学Ⅰ・B・Ⅱ		化学	物理/生物		コミュニケーション 英語Ⅱ	英語表現Ⅰ	保健	体育		家庭基礎	総学	LHR															
		理系																																			
	「文」	人文系																																			
		文系																																			
							国語特論B	世界史B	日本史B/地理B	数学Ⅱ・B	地学基礎	地学基礎/ 芸術Ⅱ																									
		国語特論A																																			
1年	理 文 文 専		国語総合				現代社会	数学Ⅰ・A・Ⅱ		物理基礎	化学基礎	生物基礎	コミュニケーション 英語	英語表現	保健	体育	芸術Ⅰ	社会と 情報	総学	LHR																	
		政治経済					世界史B																														

※授業時間については、これまでの一週あたり65分授業25コマ+50分2コマ（LHRと総学）から、50分授業34コマに変更します。

1年次の特徴

- 1年次は、「**理文**」と「**文専**」の2種類の教育課程があります。

「**理文**」⇒：これまでの数理科学科1年次教育課程の優れたところを引き継いだ教育課程。

：2年次以降、『理』と『文』いずれにも進むことができる。

「**文専**」⇒：英語・数学・国語の十分な基礎学力を有し、かつ文学部や法学部などの文化系の進路希望が明確な生徒を対象。

：文系の難関大学入試に対応できるように、世界史Bや政治経済を1年次から学ぶ。

：1年次に「文専」を選択した生徒は、2年次以降、『理』には進めない。

- 「理文」と「文専」の選択は、合格者説明会から入学までの間に行います。
- 1年生の大多数は「理文」を選択すると想定しています。

2年次の特徴

- 2年次以降は、『理』と『文』で大きく教育課程が大きく異なります。
進路希望や英語・数学・国語等の学習状況をもとに、
『理』⇒「数理系」と「理系」に、
『文』⇒「人文系」と「文系」に分かれます。
：「数理系」と「人文系」は、難関大学を志望する生徒に適した学習
集団です。難関大；東大・京大・医学部医学科・東工大・一橋大・北大・東北大・名大・
阪大・九大・神戸大など
：「理系」と「文系」は、地元の国公立大学を含めた、標準的な国公立
大学を志望する生徒に適した学習集団です。
- 2年次の選択は、1年次の秋以降、希望と適性をもとに、担任との面談
等を通じて行います。

3年次の特徴

- ・ 3年次では、

『理』⇒ 新たに「**数理探究系**」が加わり、「**数理系**」、「**理系**」の3つの学習集団からなります。

「**数理探究系**」は**国公立大学医学部医学科、東大、京大などの“最難関大学、**に挑戦する生徒を想定した学習集団です。

『文』⇒ 2年次と同じ、「**人文系**」、「**文系**」の二つの学習集団からなります。

- ・ 3年次の選択は、2年次の秋以降に、担任との面談等をもとに行います。

志望校に応じた学習集団を設定することで、切磋琢磨する学習環境に身を置くことになり、刺激しあうなかで、**より高い目標に立ち向かっていく**ことが期待できます。

高校 1 年次の教育課程編成が極めて重要となります。

必要となる教科・科目を開設できる枠組みをつくりします。

31 年度から、授業時間を標準の50分に戻します。

50 分授業を水曜日は 6 回、それ以外(月・火・木・金)は 7 回実施すると、

- ※ 1 週あたりの授業コマ数は 25 回から 34 回に増加(開設科目増)。
- ※ 1 週あたりの総授業時間数は、 $50 \text{ 分} \times 34 \text{ 回} = 1700 \text{ 分}$ で、
これまでの $65 \text{ 分} \times 25 \text{ 回} + 50 \text{ 分} \times 2 \text{ 回} = 1725 \text{ 分}$ と同等。
- ※ 時間割は 1 種類(授業間隔の間延びが改善される。最低、毎週 2 回授業)。
- ※ 授業終了時間は水曜日を除き、同じ時刻。
- ※ 要点を絞ったテンポアップした授業展開となり、生徒の集中力向上につながります。

平成31年度の日課表

SHR	8:30～ 8:35	
1限	8:40～ 9:30	
2限	9:40～10:30	
3限	10:40～11:30	
4限	11:40～12:30	すべて 50分授業
5限	13:10～14:00	
6限	14:10～15:00	
7限	15:10～16:00	水曜日は 6限まで

放課後の部活については、生徒一人一人の成長特性や競技の特性を考慮することで、今以上に効率的に活動し、成果や満足度をあげることは、桐蔭なら可能。